

他の医書と比較した漆塗り人形の経穴

島山奈緒子

関西医療大学東洋医学研究センター研究員、関西医療大学研究員、
公益財団法人研医会研究員、立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所客員研究員

老官山漢墓 M3 より出土した「天回医簡」と呼ばれる竹簡は、2022 年に文物出版社より出版された『天回医簡（上下）』（柳長華 主編）に依れば以下のタイトルに分けられる。

- ・ 脈書・上経
- ・ 脈書・下経
- ・ 逆順五色脈臧驗精神
- ・ 友理
- ・ 刺數
- ・ 治六十病和齊湯法
- ・ 療馬書
- ・ 經脈
- ・ 律令遺文
- ・ 文書散簡

竹簡の他にも木製漆塗りの経脈人像も出土しており、あらまは以下の通りである。

- ・ 高さ：14.9cm 幅：5.1cm 厚さ：約 2.6cm 重さ：約 56 g
- ・ 頭頂右後ろ、後頭骨左後部、右耳垂、右脇、右足先の漆に破損あり
- ・ 眉、目、鼻、口、耳、骨指標ははっきりしているが、性器と毛髪は無し
- ・ 大胸筋の輪郭と乳頭は見られる
- ・ 解剖学的ゼロポジションから両肘をやや屈曲、頭部がわずかに左傾
- ・ 頭、顔、四肢、関節、小腹、腰背に、平均すると直径 1.0mm の小さな穴が 111 個、穿たれている
- ・ 肩、頸、胸、背、脇、肘窩、膝窩に 20 文字の銘文あり
- ・ 体表には 22 本の赤い漆の線（張家山、馬王堆『脈書』の 11 経脈とおおよそ対応）
- ・ 41 本の漆を削った線（天回醫簡『脈書』下経の 12 経脈と間脈と関連する）

全身に穿たれた小さな穴 111 個のうち 103 個は経穴であるが、これほどの数のまとまった経穴がわかる出土資料は今のところ無い。103 個の経穴を『黄帝内経明堂』、『靈樞』など、同時代に成立したとされる医書と比較し経穴名を推定した。推定の際には体表の線も参考にしている。

経穴名を推定する作業により、漢代の経穴学の一端を紹介したい。